耐息	夏	部位	壁	分類	閉鎖型	評価日	-	平成 20	年3月	1日	評価番号	A-001		
評価	技術	5名称				連絡先	http://www.							
村	構造用	月合板を	用いた	在来補強コ	[法	Ŧ								
						電話	Fax							
	技術	析概要								1				
			善法で昼	き倍率が指	定されている構造		鱼。							
概	技術	析の特徴	¥				コスト							
1141	• -	一般流道	通品なの	つで取り扱い	いが容易。		サンプル構面39,208 円設計見積り例あり							
要	•													
	· /\b	石松月月 1-	ートス壮	術評価・性	<u></u> ₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩		字段字析機則							
		<i>対展展</i> に 幾関名	- み のtX	141) 高十 12 - 1.土 •	用比瓦丘 少7		実験実施機関							
		深価番号	<u>1.</u>				-	その他						
		评価取得												
	適用	用範囲					写真	·Ø	r					
	構法		木道	造在来軸組	工法、									
	規模			_						•	· 釘 N50			
		*、地盤		こなし					<u>.</u>		@150以			
		引部位		ト壁 マネン							四周打	「ち		
	その	71世	特(こなし										
	主 理	要構成部	B材の1つ											
				7.5 以上										
										•				
	T 13	5 J.L. A.					切欠	:き ᆣ	<u> </u>	- ' •				
		<i>复性能</i>	******	·			認	はめない。	ただし、	部分開	日構造用合	板補強に該		
	背加	近仕様: i 辞論:		_{壁仏体} 壁基準耐力	1 辟1	表準剛性		すれば、		善ずる。	•			
仕		上に上	5.2 kl			κN/rad/m								
							・ 後(胴縁)を切り欠かない口 500 mm以下の欠 ・ 複数個ある穴の大きさは、構造用合板や桟							
様							■ 縁)に囲まれた区画ごとに、包絡形で考える。							
	設計	<i>+方法</i>					/IS	ハに囲みれ	、 ^{C3} が7/2 くっ 欠き—、					
		①柱接台				φ 100								
				全であること	が前提。		□500以内							
		②劣化に		减 ≧であること	75 77.1 1									
	Д	以 17 百0 ク	ナルが乗る	E (200-2	か削促。				$-\phi$	150				
	施ユ	L 者指定						***		φ 100-				
		寺になし						Q						
										=				
	その	0他					——							
	牛	寺になし	,				区画ごとに 区画内の包				l絡形			
							□ 				が規定超			
											切欠き不可			

耐震	部位	壁	分類	閉鎖型	評価日	平成 20 年 3 .	月1日	評価番	号	A-002			
評価	技術名称				連絡先	http://www.							
_	シ割筋が	を用い	た在来補強	工法	Ŧ								
					電話	i話 Fax							
	技術概要				L	·							
	建築基	準法で昼	き倍率が指力	定されている二	ッ割筋かいのた	すき掛け。							
概	技術の特征	数				コスト							
要			つで取り扱い ので、既存		なにくく、取り合い	が容易。	プル構面 54,144 円 見積り例 あり						
	公的機関	による技	術評価・性	能証明		実験実施機関							
	機関名		•										
	評価番		•			その他							
	評価取	得日	•			写表 网							
	<i>適用範囲</i> 構法	*		一,		写真•図							
	規模	······	は全て以下	上伝、									
	基礎、地盤		こなし			-							
ļ	適用部位		卜壁										
	その他	特に	こなし										
 	主要構成 。 二ッ割 端部接	筋カコレ丶 ∠	上様 45×90 以⅃										
				き掛け大壁仕			$\setminus \mid \mid$						
仕		晉쪽•壁 ×2=6.₄	基準耐力 lkN/m		<u> </u>								
 様 	3.2	~2—0.•	+KI V/ III	030 × 2 =	1300KIV/III								
	②劣化	分が健 d による低 分が健 d 定	きであること			·□ 端音	邓接合金色	物 BP2 J	くは同	等品			

耐震	部位	 壁	分類	閉鎖型	評価日	平成 20 年 3 月	1日	評価番号	A-003				
評価	技術名称				連絡先	http://www.							
	部分開口	構造用	合板補強コ	二法	Ŧ								
	「かさ上り	げ」			電話	Fax							
	技術概要				<u>I</u>	·							
-	床・天井 技術の特 績		することなく	、土台・梁から初	えがにより オ	床天井レベルまでかさ上げを施し、構造用合板で補強する。 コスト							
概	· 天井·床	でを解体	することなく	補強が可能。		サンプル構面 15,609 円							
要	・ 板厚 9r	nmなの	で、石膏ボ	ード等の既存壁	と段差がつき	きにくく、取り合いが容易。 設計見積り例 なし							
	•												
		こよる技	<i>術評価•性</i>	能証明		実験実施機関							
	機関名		•			名古屋工業大学							
	評価番		•			その他							
	評価取 適用範囲	侍日	•										
	構法 規模 基礎、地盤 適用部位 その他 主要構成語 構造用・ 耐震性能 評価仕様: 壁強さ	3 階 特に 内タ 特に 部材の石 合板 厚 直貼大り 倍率・壁 5.2 kN/	E9以上 壁仕様 基準耐力 m i用合板の(壁基	集剛性 V/rad/m		以下 坂 .上						
	②劣化	分が健 による低 分が健 	全であること			かさ上げ寸法 a+b≦370mm かさ上げ材 45×90mm以上 かさ上げ用 釘 N90、または同等長ビス (横架材、かさ上げ材に対して)							

閉鎖型 平成 20 年 3 月 1 日 耐震 評価番号 部位 辟 分類 評価日 A-004.2 評価技術名称 連絡先 http://www. ₹ 部分開口 構造用合板補強工法 「上下あき」裏桟あり、なし 電話 Fax 技術概要 梁及び土台と面材が接合されていない構造用合板補強である。 床天井間のみを構造用合板で補強する工法。 技術の特徴 コスト 概 サンプル構面 天井・床を解体することなく補強が可能。 13,766 円 (裏桟あり) ・ 壁体内に土壁や設備配管等が存在しても施工可能な裏桟なしの仕様もある。 設計見積り例 公的機関による技術評価・性能証明 実験実施機関 機関名 名古屋工業大学 評価番号 その他 評価取得日 適用範囲 写真•図 構法 木造在来軸組工法、 規模 3 階建て以下 部分開口:a+b≤370mm 基礎、地盤 特になし 適用部位 内部壁]]><< その他 特になし ٩ 20 端部2 主要構成部材の仕様 構造用合板 裏桟あり厚9以上、裏桟なし厚12以上 裏桟を設ける場合は面材の上端と下端に 45×90 以上 裏桟の端部は柱に釘 N75 を斜め打ち2本 厚12 耐震性能 @100 評価仕様:直貼大壁仕様 裏桟あり、なし 壁強さ倍率・壁基準耐力 壁基準剛性 裏桟あり 4.16kN/m 584kN/rad/m 裏桟なし 3.64kN/m 511kN/rad/m 仕 背 裏桟あり:一般的な構造用合板の低減係数 α =0.8 20 様 壁強さ倍率 5.2×0.8=4.16 [>><[] 裏桟なし:一般的な構造用合板の低減係数 α =0.7 壁強さ倍率 5.2×0.7=3.64 裏桟あり 裏桟なし ·釘 N50 · 釘 N50 設計方法 ①柱接合部による低減 @150mm 以下 @100mm 以下 取付部分が健全であることが前提。 四周打ち 川の字打ち ②劣化による低減 端あき 20mm 以上 端あき 20mm 以上 取付部分が健全であることが前提。 構造用合板 構造用合板 施工者指定 厚 9mm 以上 厚 12mm 以上 特になし 上下裏桟 45×90mm 以上 端部端あき 20mm 柱に対し 2-N75 斜め打ち その他 平成22年3月9日 裏桟なし仕様追加

平成 20 年 3 月 1 日 耐震 部位 辟 分類 閉鎖型 評価日 評価番号 A-005.2 評価技術名称 連絡先 http://www. ₹ 部分開口 構造用合板補強工法 「押入」裏桟あり、なし 電話 Fax 技術概要 押入の床及び天井の間で段板を除いた部分を構造用合板で補強する耐震補強工法。 技術の特徴 コスト 概 サンプル構面 ・ 天井・床・中段・枕棚/天袋を解体することなく補強が可能。 17,352 円 (裏桟あり) ・ 壁体内に土壁や設備配管等が存在しても施工可能な裏桟なしの仕様もある。 要 設計見積り例 あり 公的機関による技術評価・性能証明 実験実施機関 機関名 名古屋工業大学 その他 評価番号 評価取得日 写真•図 適用範囲 構法 木造在来軸組工法、 部分開口:a+b≤370mm 規模 3 階建て以下 $c+d \leq 400mm$ 基礎、地盤 特になし それぞれの構造用合板高さ 400mm 以上 適用部位 内部壁 その他 特になし Ф 主要構成部材の仕様 20部 構造用合板 裏桟あり厚9以上、裏桟なし厚12以上 20 裏桟を設ける場合は面材の上端と下端に45×90以上 ъ]_>><[О 裏桟の端部は柱に釘 N75 を斜め打ち2本 厚12 耐震性能 @100 罪 評価仕様:直貼大壁仕様 裏桟あり、なし 壁強さ倍率・壁基準耐力 壁基準剛性 裏桟あり 3.12kN/m 438kN/rad/m 仕 裏桟なし 1.82kN/m 160kN/rad/m 裏桟あり:一般的な構造用合板の低減係数 α =0.6 様 壁強さ倍率 5.2×0.6=3.12 裏桟なし:一般的な構造用合板の低減係数 α =0.35 `>><<` a 壁強さ倍率 5.2×0.35=1.82 裏桟なし 裏桟あり 設計方法 ①柱接合部による低減 ·釘 N50 ·釘 N50 取付部分が健全であることが前提。 @150mm 以下 @100mm 以下 ②劣化による低減 四周打ち 川の字打ち 取付部分が健全であることが前提。 施工者指定 端あき 20mm以上 端あき 20mm以上 特になし 構造用合板 構造用合板 厚 12mm 以上 厚9mm以上 その他

平成22年3月9日 裏桟なし仕様追加

上下裏桟 45×90mm 以上 端部端あき 20mm

柱に対し 2-N75 斜め打ち

耐震 部位 壁 分類 閉鎖型 評価日 平成 22 年 3 月 9 日 評価番号 A-006 評価技術名称 連絡先 http://www. ₹ 部分開口 構造用合板補強工法 「真壁 上下あき」、「真壁 押入」 電話 Fax 技術概要 床、天井間のみをアルミアングルと構造用合板で補強する耐震補強工法。 技術の特徴 コスト 概 ・ 土壁・天井・床・中段・枕棚/天袋を解体することなく真壁や入隅に施工が可能。 サンプル構面 なし ・ 真壁の仕上がりで補強が可能 設計見積り例 なし 要 ・ 壁体内に土壁や設備配管等が存在しても施工可能。 公的機関による技術評価・性能証明 実験実施機関 機関名 名古屋工業大学 評価番号 その他 評価取得日 写真•図 適用範囲 構法 木造在来軸組工法、 部分開口:a+b≤370mm 規模 3 階建て以下 $c+d \leq 400mm$ 特になし 基礎、地盤 それぞれの構造用合板高さ 400mm 以上 適用部位 内部壁 その他 特になし []>><<[Ф [>><<[Ф 207 端部) 20 主要構成部材の仕様 20 悲 構造用合板 厚 12mm 以上]_>><=] σ アルミ不等辺アングル9×40 t=1.5 またはこれ以上の 厚12 サイズのもの 厚12 @100 悲 JIS H4100 の A6063-T5 材(アルミ建築構造設計基 @100 20 準で AS110 材)またはこれと同等の強度を有するもの `_>><<_` O 木ビス(コーススレッド) L=32、木タッピングビス L=30 20 耐震性能 淵 評価仕様:直貼真壁仕様 仕 20 壁強さ倍率・壁基準耐力 壁基準剛性]>><:([]_>><<[(a 上下あき 4.16kN/m 584kN/rad/m 様 押入 2.08kN/m 292kN/rad/m 上<u>下あき</u> _真壁 押入 真壁 上下あき:一般的な構造用合板の低減係数 α = 0.8 ・木ビス(コーススレッド) L=32 @100mm 以下 壁強さ倍率 5.2×0.8=4.16 端部の端あき寸法は 20mm 押入:一般的な構造用合板の低減係数α=0.4 壁強さ倍率 5.2×0.4=2.08 ·構造用合板 厚 12mm 以上 設計方法 ①柱接合部による低減 取付部分が健全であることが前提。 土壁 アルミ 不等辺アングル ②劣化による低減 9×40 t=1.5 またはこれ以上 木タッピングビス 取付部分が健全であることが前提。 木ピス L=32mm 施工者指定 (コーススレッド) 特になし 構造用合板 t=12mm その他 平成22年5月20日 アルミアングル 訂正

耐力	喪	部位	壁	分類	閉鎖型	評価日		平成 22 年 3 月	9日	評価番号	号 A-007			
評化	西技 _行	術名称				連絡先	http://www.							
	:	部分開口	構造	用合板補引	鱼工法	=								
		「換気」					電話 Fax							
	技	術概要	***											
概要	技· · · ·	裏桟を用 術の特徴 壁体内に 換気扇だ 一般流過	t こ土壁* などの開 通品な <i>0</i> こよる技		等が存在して 吏用可能。 いが容易。		を耐震補強工法。							
仕 様	構造を	模 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	3 階	E 12mm 以 Dmm以下 壁仕様 壁基準耐力 N/m - 板の低減(倍率 5.2×	上 フ を 系数 $\alpha = 0.9$ 0.9=4.68	達基準剛性 57kN/rad/m	写事。 	厚12 @100		柱・梁・	mm 以下 土台打ち 70 mm 角以内			